

日本史概説		講義	教授 中村 光一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220105 12220126 13220131	

1. 授業のねらい・概要

日本の歴史を時代区分した場合、古代・中世・近世・近現代の4つに分ける考え方がある。もし1セメスターの中でこれらすべてを網羅的に見ていくとすると、一つの時代についておよそ3, 4コマで対応することになるが、それでは大学生にとっての教養科目としてあまりに茫漠たる内容とならざるをえない。

そこで、本講義は対象を8, 9世紀のおよそ200年間にしぼり、その間のわが国の政治、社会、文化の様相を見ていくことで日本史の概説にあてたいと思う。

対象をこの時期とした第一の理由は、講義担当者がこれまで8, 9世紀史を主な研究対象としてきたことである。第二の理由は、「律令国家」の時代と呼ばれるこの時期に、前近代を規定する様々な法制度が確立されていること、また、この時期に都の置かれた奈良・京都が古都として、今日でも日本人のいわば「心のふるさと」としての地位を占められていると考えるからである。高校の日本史の時間であればわずかず数時間の講義で終えてしまう部分を、じっくりと解説していきたいと考えている。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を進めるが、受講生の理解をより深めるため、パワーポイント等のAV機器を活用したいと思う。

3. 授業計画

1. 7世紀後半期の東アジア情勢と日本	9. 奈良朝政治の諸相④ 称徳・道鏡政権
2. 律令国家の構造①—統治のしくみ	10. 光仁から桓武へ
3. 律令国家の構造②—一般農民の生活と税の負担	11. 『万葉集』の時代
4. 藤原京から平城京へ	12. 征夷と造都
5. 奈良仏教	13. 三代の平安
6. 奈良朝政治の諸相① 長屋王の悲劇	14. 平安貴族の生活
7. 奈良朝政治の諸相② 天然痘と奈良朝政治	15. まとめ 一律令国家二百年をふりかえって
8. 奈良朝政治の諸相③ 藤原仲麻呂政権	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、次回の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際、受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

「日本古代史」について理解を深め、講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有すること。

7. 成績評価の方法・基準

試験の結果（70%）、授業への取組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず、必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため、ノ

ートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので、図書館を利用するほか、新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

9. 受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって、決して十分条件ではない。また、授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書、投影したものを単に写していくだけでは、本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。なお、本講義では歴史上の人物や法令など固有名詞が頻出するので、あらかじめ高校程度の日本史の知識を修得しておいてほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

日本文化概論		講義	教授 中村 光一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220107 12220128 13220133	

1. 授業のねらい・概要

「日本文化」あるいは「伝統文化」という言葉を聴いて、諸君はいかなるイメージを頭に描くだろうか。能や歌舞伎、文楽といった伝統芸能の数々を思い浮かべる者もいるであろうし、寺社や城といった建造物、そこに収められている様々な工芸作品、あるいは寿司や蕎麦といった和食のメニューを考える者もいるかもしれない。もちろん、この問いには何が正しく何が間違っているという解答はない。我々の祖先が営んだ生の中で形作られてきた、有形・無形のさまざまな遺産を総称して「日本文化」「伝統文化」と捉えることができるのではないだろうか。

本講義は主に前近代を対象として、基本的には1コマで一つの事例を取り上げることで、時には外国からの強い影響を受け、また時には固有の展開を見せながら発展してきた「日本文化」、及びそれを構成した様々な要素（文物、芸能、その他）を紹介していきたいと考えている。

もとより、半期という期間の中で「日本文化」を網羅的に述べることは困難であり、トピックを取り上げる形で講義を行うことをあらかじめ断っておきたい。

2. 授業の進め方

講義形式で授業を進めるが、受講生の理解を助けるためパワーポイント等のAV機器を活用したいと思う。

3. 授業計画

1. 「日本文化」を概観するー導入	8. 火縄銃ー技術の移入
2. 縄文と弥生	9. 茶の湯ー極小の宇宙
3. 古墳	10. 城郭ー多賀城と姫路城
4. 神社と寺院ー固有と外来	11. 伝統芸能①ー能楽
5. 東大寺廬遮那大仏 ー8世紀の国家プロジェクト	12. 伝統芸能②ー歌舞伎
6. 平等院鳳凰堂ー浄土への思い	13. 浮世絵ージャポニスムへの影響
7. 金閣と銀閣ー禅の文化	14. 寿司・蕎麦・天ぷらー「和食」の成立
	15. 近現代への展望ーまとめにかえて

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前の回の講義時間の中で紹介する参考文献等を、今回の講義時間までに目を通しておくこと。この準備学修には、2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験の際、受験者に対して出題意図・解答のポイントについて解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

「日本文化」について理解を深め、講義で取り上げた事項についてそれぞれ簡単な説明ができる程度の知識を有する。

7. 成績評価の方法・基準

試験の結果（70%）、授業への取組み姿勢（30%）。講義への積極的な参加を希望する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定せず、必要に応じて講義プリントを配付することがある。その試験持ち込みは不可であるため、ノ

ートを別に用意して講義を受講すること。参考文献は講義の中で随時紹介していくので、図書館を利用するほか、新書レベルの書籍は各自購入して読むように心がけてほしい。

9. 受講上の留意事項

授業に出ることは必要条件であって、決して十分条件ではない。また、授業では「ノートに写す」ことも必要だが「ノートを作る」ことも重要である。板書、投影したものを単に写していくだけでは、本当にその講義の内容を理解したことにはならないということに気づいてほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、博物館学芸員としての実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

社会科学の基礎A		講義	准教授 黒沢 賢一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目、スポーツトレーナーコー スの教養選択科目	科目ナンバリング	11220116	

1. 授業のねらい・概要

科学は社会科学、人文科学、自然科学に分けられるが、このうち社会科学は法学、政治学、行政学、経済学、社会政策、財政学などの総称で、社会の真理を探究する学問である。中学、高校では「公民」「公共」「政治経済」などの科目で学んだ知識が社会科学である。

「社会科学の基礎A」では、法学、政治学、行政学の基礎概念について学び、それらの知識をもとにますます複雑化している現代社会を見る眼を養っていくことを目的とする。また社会科学は公務員試験で出題される一般常識(知識)分野の重要科目であり、講義では試験に出るポイントも解説し、この授業だけで合格ラインをこえられる知識を修得できるようにする。

2. 授業の進め方

板書しながら解説する講義形式で進める。授業では知識を解説してだけでなく、その日の授業に関連する時事問題も積極的に取り上げ、理論と現実との懸け橋となれる講義をめざしていきたい。また公務員試験の過去問題も紹介していく。

3. 授業計画

1. ガイダンス (授業予定と注意事項) 〈法学〉	8. 政治制度論
2. 法の分類	9. 国会
3. 法の支配と法治主義	10. 内閣
4. 日本国憲法	11. 裁判所
5. 基本的人権	12. 政党政治と選挙
〈政治学・行政学〉	13. 地方自治
6. 国家論	14. 国際政治
7. 民主政治の基本原理	15. まとめ講義

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが、授業を受けた後はテキストと配布されたプリントを必ず読み直し、授業時に紹介された参考文献等があれば、それを読んでさらに理解を深めて欲しい。そのための復習時間は1~2時間程度、必要になる。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

講義ノート、レポート提出後に評価のポイントなどを指摘する。

6. 授業における学修の到達目標

- (1) 社会科学の基礎知識が理解できるようになる。
- (2) 法学、政治学、行政学の基礎概念がわかるようになる。
- (3) 時事問題について、自分の意見や考えを言えるようになる。
- (4) 大卒レベルの警察官、消防士、市町村職員採用試験等の問題が解けるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

講義ノート(50%)とレポートの結果(50%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- (1) 黒沢賢一著『社会科学の基本理論 大学教養講義ノート』(学術研究出版) 毎回必ず持参すること。

(2) この他必要なプリントを配布し，参考文献や受験教材等は授業の中で紹介する。

9. 受講上の留意事項

授業中は板書したことをしっかり講義ノートにとり，また授業はただ聞いているだけでなく，説明された内容はメモを取りながら聞く習慣を身につけること。

授業中の私語やスマートフォン，イヤホン等の使用は認めない。

他の学生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は地方議会における実務経験(市議会議員)を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツと文化		講義	教授 平沢 信康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目		科目ナンバリング	11220110 12220131 13220135

1. 授業のねらい・概要

今日、世の中には様々なスポーツ競技種目が存在する。世界中の人々がプレーを楽しみ、また地球上の数多くの人々がスポーツを観戦している。本講義では、スポーツの歴史を先史時代や古代より現代まで、人類史的観点から多角的に考察するものである。

とくに文化史の視点から、ときには文化人類学的観点も交えながら、スポーツ史について検討する。テレビや新聞などで報じられる現代のスポーツ・ジャーナリズム情報とは異なる、世界史的教養を文明史の視点から深める講義としたい。

2. 授業の進め方

基本的には、講義内容の概要を記したレジュメをGメールで事前配信し、その講義要旨に即して解説する。適宜PowerPointを活用してテーマに関係する画像をスクリーンに映して紹介しつつ、そのビジュアルな情報を以てレクチャーの発話・文字による理解を補う方法で進める。

よって受講生諸君には、講義要旨を読みつつ、スクリーンにも注視するよう努めてほしい。

3. 授業計画

1. 「スポーツ」とは何か? — 語義と語法	9. 近代フットボールの成立と派生形
2. スポーツの歴史 — その概観と種類 (類別)	10. 球を棒等で打つ競技の誕生と歴史
3. オリンピックの歴史と文化	11. 体操という身体運動文化の近代史
4. 祭典・祝祭とスポーツ	12. 近代球技スポーツの文化史
5. スポーツと宗教	13. 日本における近代スポーツの紹介と導入
6. スポーツと社会階級	14. 近代日本におけるスポーツ文化の普及と発展 — 学生野球の歴史を中心に
7. 体育スポーツ施設の文化史	15. 西欧諸国におけるスポーツクラブという組織文化
8. 足で蹴る球技スポーツの歴史 — フットボールとバスケットボールを中心に	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

資料をpdf版で事前送信するので、その講義要旨の当該ページを次回講義までに通読して予習(30分程度)しておくこと。興味をひかれた情報については、受講者各自が所有するスマホ等で検索し、積極的に確認してもらいたい。

また講義終了後、講義要旨(レジュメ)の内容を読み返し、気になる事項や人名あるいは地図についてインターネットで検索して、あるいは関連文献で学習を深掘りし、復習(30分程度)しておくこと。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

学期末試験について特に注意を喚起すべき事項(多かつた誤答など)等の講評をGメールで履修者全員に対して配信することでフィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

文化としてのスポーツの創造・発祥や誕生の歴史(ルーツや創始者を含む)および文化としてのスポーツの国際的な伝播について理解を深め、説明できるようになることをめざす。

歴史のみならず、併せて世界の地理に関する認識・理解も高める。

7. 成績評価の方法・基準

学期末に実施する筆記試験の点をもって評価する。

8. テキスト・参考文献

木村毅『日本スポーツ文化史』ベースボール・マガジン社，1978年
ハイナー・ギルマイスター『テニスの文化史』大修館書店，1993年
寒川恒夫編著『スポーツ文化論』杏林書院，1994年
杉本厚夫『スポーツ文化の変容：多様化と画一化の文化秩序』世界思想社，1995年
鈴木守，山本理人編著『スポーツ文化の現在（いま）』道和書院，2000年
稲垣正浩編著『スポーツ文化の「現在」を探る』叢文社，2002年
井上俊，菊幸一編著『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房，2012年

9. 受講上の留意事項

講義中は私語を慎み，居眠りをしないこと。
可能な限り図書館に行って，上記参考文献をはじめとするスポーツ文化（史）の文献に親しむこと。
インターネットでの検索を厭わず，億劫がらずに，こまめに調べる態度と習慣を養うこと。
当該回の講義要旨全体を熟読して，復習すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

日本国憲法		講義	教授 吉田 一康	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目、スポーツトレーナーコー スの教養選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220115 11510101 12220135 12510101 13220140 13510101	

1. 授業のねらい・概要

日本国民として知っておかなければならない国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解します。特に、最近、問題となっている憲法改正や皇位継承、自衛隊の海外活動については、論点を詳細に考察して、自分の意見を持つことを目的とします。また、2009年から開始された裁判員制度に適切に対処できる準備をしておきます。

以上の学習を通じて、生命の尊厳を理解し、倫理観と責任感、幅広い視野を持った心豊かな人間性を身につけます。更に、国際的な視野を持って活動できる能力を有して国際平和の実現に寄与できる人間となることを目標とします。

「ビジネス法学入門」の基礎的な部分と関係します。

2. 授業の進め方

- ① 50～60分 配布するレジュメ（要約の印刷物）に従ってパワーポイントを使用して講義を行います。憲法の第1章「天皇」第1条から第11章「補則」第103条まで、重要事項について、基本的に条文番号順に説明します。
- ② 30～40分 配布する練習問題に回答して、その後、解答を行います。また、質問・意見があれば討議を行います。

3. 授業計画

1. 講義紹介	9. 社会権（生存権など）
2. 憲法とは（憲法定定、硬性・軟性憲法）	10. 財産権・人身の自由（財産権の不可侵など）
3. 国民主権と天皇制（象徴天皇、皇位継承）	11. 参政権（選挙権、被選挙権、公務就任権）
4. 戦争放棄（自衛戦争、侵略戦争）	12. 国会（二院制、国政調査権）
5. 第9条関係（自衛隊の海外派遣）	13. 内閣（議院内閣制、解散権）
6. 憲法の主体（日本国民、外国人、法人）	14. 裁判所（裁判員制度）
7. 基本的人権（法の下での平等）	15. 司法、財政、地方自治、憲法改正など
8. 自由権（思想及び良心の自由など）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各講義の内容に関係する参考文献の該当箇所を読んでくること（1時間程度）。講義後、授業内容を復習して、レジュメ及び練習問題の解答を理解しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ① 各講義で行う練習問題の後に、解答及び説明を行います。
- ② 期末試験の後に、解答を行います。

6. 授業における学修の到達目標

- ① 国民の権利・義務や国の基本的な統治形態について理解できるようになること。
- ② 戦争放棄や自由権などの政治問題について独自の価値観を形成すること。

7. 成績評価の方法・基準

評価は、上記6に示した学修の到達目標を、ルーブリック評価表を基に4段階評価（A80点以上 B70～79点 C60～69点 D（不可）60点未満）で採点します。ルーブリック評価表に関する詳細は、第1回講義内で別途説明します。

具体的には、積極性10～20%＋期末試験80～90%で評価します。積極性は、受講態度や積極性で評価して、客観的に認

識できる遅刻、私語・居眠りに対する注意の場合、減点します。期末試験の受験資格は、全講義の3分の2以上に出席した者とし、出題範囲は全講義で、特に上記6①を主とする専門的知識の理解度の確認をする穴埋め問題と、同②に関する記述問題を出題します。

8. テキスト・参考文献

毎回、レジュメと練習問題を配布し、テキストは使用しませんので、特に購入する必要はありません。自習のための参考文献として下記のを挙げます。

①小嶋和司・大石眞『憲法概観』（第7版）有斐閣双書 2011年（2090円）

②木下智史・只野雅人『新コンメンタール憲法』日本評論社 2015年（5060円）。

9. 受講上の留意事項

私語・態度不良など他の受講者の迷惑となる行為や、遅刻・中途退席などの目立つ受講者については、評価を減点又は受講を制限します。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、不動産会社等における法務の実務経験を活かして指導します。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

統計学の基礎 -データ処理入門-		講義	教授 竹内 成生	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目、スポーツトレーナーコー スの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220125 12220142 13220128	

1. 授業のねらい・概要

私たちは日ごろ各メディアを通じ、人口・年収といった様々な数値データを目にしている。しかし、その全てが正しいデータ処理と解釈がされているわけではない。統計とは様々なデータを客観的に取り扱い、正しく評価するためのツールであり、スポーツ分野でも広く利用されている。例えば、競技データの検討、スポーツ製品の市場評価などにも用いられ、その利用価値は高い。本講義では初学者からでも学べるように身近な現象を取り上げ、表計算ソフトや無料の統計ソフトを用い、データの取得やその分析体験を通して、データを正しく扱う能力と読み取る能力を養うことを目標とする。

2. 授業の進め方

パワーポイント、板書等により授業を展開し、学生はコンピュータ教室で実際にPCを操作しながら、具体的統計手法を学ぶ。

3. 授業計画

1. 統計学とはなにか	9. 帰無仮説と検定の概念
2. 調査手法とデータの種類	10. 検定用データの取得（履修者が実際に取得）
3. データの種類と代表値	11. 相関分析 I（集計・基本統計量・散布図）
4. 課題データの取得（履修者が実際に取得）	12. 相関分析 II（相関係数と有意水準）
5. データ集計（集計・度数処理）	13. 2群の差の検定 I（対応のある t 検定）
6. データ可視化（図表による表現）	14. 2群の差の検定 II（対応の無い t 検定）
7. データ分散 I（平均値と標準偏差）	15. 総合演習
8. データ分散 II（信頼区間）	*本講義はコンピュータ教室で行う。

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため、各テーマについて予め調べておくこと。加えて、各講義で学んだ各統計・データ処理手法について理解を深め、実際に処理できることが重要である。なお、各講義における準備学習時間は2時間程度を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題に関する詳細解説は講義内にておこなう。また、最終課題のフィードバックは出題意図・解答ならびに理解すべき点等について最終課題終了後に実施する。

6. 授業における学修の到達目標

本講義では、データ処理に関する基本的な実践能力の習得を目指す。具体的には EXCEL などの表計算ソフトや無料の統計ソフトを利用し、データを正しく扱う能力と読み取る能力を養うことを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

各回の課題実施状況（50%）、最終課題（50%）を基準として総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。参考図書は以下に加え、授業中に適宜紹介する。また、プリントを配布することがある。
参考図書：清水 優菜・山本 光 JASP で今すぐはじめる統計解析入門 講談社（ISBN-13: 978-4065292945）

9. 受講上の留意事項

本講義ではPCを使ったデータ処理と統計の基礎を学ぶため、Microsoft Excelの基本操作が可能であることが履修条件となる（コンピュータリテラシB受講済み、もしくは同等の操作技能を有する）。また、講義内で各テーマに即したデータ取得を学生間相互で実施するため、積極的に参加することが重要である。履修希望者が定員を超えた場合には抽選となることがあるため、希望者は初回講義に必ず参加すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当なし。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

化学基礎		講義	教授 田中 基晴	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220127 12220144 13220105	

1. 授業のねらい・概要

私たちの体は化学物質から構成されている。スポーツをするにも、救急救命をするにも、化学物質、化学物質間の相互作用、及び反応を知っていると、さまざまな処置や対応について深く理解することができる。理解できると興味が湧き、自ら学ぶ意欲が一層湧いてくるものである。授業は高校化学の復習が中心となるが、より実生活、スポーツに関連した化学を勉強することを目指している。

2. 授業の進め方

基本的には、教科書およびプリントを使って講義 (OHP and/or 板書) を進める。授業最後にその日のまとめを説明する。

3. 授業計画

1. はじめに一物質の基本粒子	9. 酸と塩基
2. 化学結合	10. 酸化還元反応
3. 物質と化学反応式	11. 典型元素の性質
4. 物質の状態変化	12. 遷移元素の性質
5. 気体の性質	13. 脂肪族化合物
6. 液体の性質	14. 芳香族化合物
7. 化学反応と熱	15. 高分子化合物と生活
8. 反応の速さと平衡	

4. 準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業前に教科書の予定範囲を読み、大事そうだと思うところや分からないところをノートに書きながら、予習して下さい。分からないところに印をつけて下さい。また、ネットでもよいので語句の意味を確認しておくこと。

各単元終了後に「まとめ」を提示して知識の確認を行うので、「まとめ」を十分理解、記憶するように復習する。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

筆記試験

- 正解は貼りだす。
- 解説は、不正解問題を中心に行う。

6. 授業における学修の到達目標

化学物質の特性及び化学反応の仕組みを学び、スポーツや救急救命に役立てる。

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の基準

主にスポーツに携わる者として最低限必要な化学的知識についての理解到達度によって成績評価を行う。

2) 成績評価の方法

- 受講態度 (出欠・遅刻・早退、スマホ閲覧など) (30%)。(スマホ閲覧を禁止しています)
- 筆記試験 (70%)。

8. テキスト・参考文献

テキスト:「高校の化学」が一冊でまるごとわかる 竹田淳一郎 ベレ出版 2018年出版

9. 受講上の留意事項

高校で学んだ「化学基礎」または「化学」を復習しておくこと。

10. [実務経験のある教員等による授業科目]の該当の有無

該当する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

健康とスポーツA		講義	准教授 諏訪 利成
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目, スポーツトレーナーコースの専門選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 教職科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220130 11510102 12220146 12510102 13220125 13510102

1. 授業のねらい・概要

自由時間の増大にともない、スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを考えることをねらいとする。スポーツという言葉は日常おおく使われるが、これから定義したり内容を限定しようとする問題が多い言葉である。

そこで、スポーツ生活について言語学的な理解とスポーツについての理解を深め、スポーツ生活について考え、学生たちが屋外で行う健康的なスポーツとして幅広い教養とスポーツを享受する能力を高め、ゆとりある社会生活を営むことを考えていく講義にする。

2. 授業の進め方

理論と実技を交えながら講義を行う。低下しつつある体力の回復を計ることを狙いとするとともにスポーツを通じて仲間づくりと、運動の量を確保しながら講義を進めて行きたい。

3. 授業計画

1. ガイダンス (教室にて)	9. サッカー (②班別による練習ゲーム)
2. 健康の考え方	10. ソフトボール (ルールの理解)
3. スポーツ活動	11. ソフトボール (簡単スコアの書き方)
4. 実技種目の説明	12. ソフトボール (簡単スコアの書き方・練習ゲーム)
5. サッカー (ルールの理解)	13. ソフトボール (①班別による練習ゲーム)
6. サッカー (パスの練習)	14. ソフトボール (②班別による練習ゲーム)
7. サッカー (パスの練習・練習ゲーム)	15. まとめ (歴史についての理解)
8. サッカー (①班別による練習ゲーム)	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前に 60 分ほどかけて、書籍などにより各種目のルールを理解しておくこと。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

授業最終日、各自に対応する。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツを通じてどのように豊かな生活を過ごしたらよいかを理解し、実践できることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

求められる実技がしっかり行えているか (50%)、また積極的に参加できているか (50%) を見て評価する。

8. テキスト・参考文献

随時指示する。

9. 受講上の留意事項

実技を行う際には運動に適した服装で出席すること。受講人数が多い場合は調整することもある。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

スポーツの科学 A		講義	講師 菅谷 美沙都 教授 谷口 英規 非常勤講師 小野 壮二郎	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目, スポーツトレーナーコー スの教養選択科目 教職科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11220132 11510104 12220148 12510104 13220129 13510104	

1. 授業のねらい・概要

スポーツとは「日常からの解放」という原義を包含しつつ、現代においては「職業」、「学生の課外活動」、「趣味」、「健康維持」など様々なスポーツの在り方が存在し、人々の日常生活や社会生活に広く取り入れられている。スポーツの社会的な価値が認められつつある一方で、近年はスポーツという文化が内包する負の側面（暴力の許容等）についても露呈されており、我々はこうした問題を看過することはできない。本講義では、スポーツをあらゆる側面から多面的に捉え、現代社会におけるスポーツの価値を学ぶとともに、スポーツ実践者としてスポーツとどのように向き合うべきか、理論と実技を通じて一人一人が深く再考する講義としたい。

2. 授業の進め方

本講義は、理論と実技の混合型講義である。講義においては、スポーツの起源やスポーツ特有のゲーム性、スポーツを行なう上でのスポーツマンシップの姿勢やフェア志向の考え方を概観する。実技においては、バスケットボールやソフトボールといったチームスポーツを体験する。

3. 授業計画

1. ガイダンス (菅谷)	9. 基本的なシュート (小野)
2. スポーツの起源と歴史 (菅谷)	10. 戦術や連携プレー (小野)
3. スポーツにおける「ゲーム」と「試合」(菅谷)	11. 投球基礎【キャッチボール】(谷口)
4. 現代スポーツの諸問題 (菅谷)	12. 守備基礎【ゴロ捕球・フライ捕球】(谷口)
5. スポーツマンシップとフェア志向 (菅谷)	13. 打撃基礎【トスバッティング】(谷口)
6. バスケットボールの特性と基本動作 (小野)	14. ゲーム①【ケースを設定】(谷口)
7. ボールコントロールの指導①ドリブル (小野)	15. ゲーム②【チーム毎に戦術を立てる】(谷口)
8. ボールコントロールの指導②パスとキャッチ (小野)	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

講義はシラバスに則って進行するため、各テーマについて予め疑問に思うこと、知りたいことを考察しておくこと。また、レジュメを振り返りながら講義内容に関して理解しているかを確認し、疑問に思ったこと等を次回の講義で質問できるようにまとめておくこと。これらの準備学修には2時間程度が必要である。実技に関しては、可能な範囲で繰り返し練習すること。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

レポート提出後、解答、要点等を解説し、フィードバックする。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツをあらゆる側面から多面的に捉える能力を身につけることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

菅谷担当分は課題レポート (40%) として実施し、小野担当分 (30%)、谷口担当分 (30%) の実技評価と合わせて評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは基本的には使用しない。講義レジュメを適宜配布する。

9. 受講上の留意事項

実技の際、服装はスポーツに適したものを着用し、その他、各担当の先生の指示に従うこと。また、爪は短く切り、ネックレス、ピアス等は、危険なので外すこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

社会貢献実践		演習	教授 植松 盛夫	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養 選択科目、スポーツトレーナーコー スの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220136 12220153 13220144	

1. 授業のねらい・概要

大学が認定する団体（公共機関，民間団体，NPO など）でのボランティア活動等に参加することによって，地域社会になじみ，関わり，それを深め，地域課題を発見するというプロセスを通じて，問題解決に向けた構想力と実践力を身につけることをねらいとする。

このような学びは，現実にある問題に直面した際に，既存の「マニュアル」にない方法で解決を導くトレーニングであり，今後の学生諸君のライフ・キャリアにおいて重要な力となる。これはまた，現在，本学が積極的に取り組んでいるアクティブ・ラーニング（能動的な学習）の1つでもある。

以上の趣旨から，本講義は，教員が一方向的に学生に知識の伝達をする講義スタイルではなく，学生が自発的に取り組み，グループ学習や現地実習，ディスカッション，結果報告会（プレゼンテーション）などを行うことにより，単位が認定されることになる。

2. 授業の進め方

実習では，学生が希望する実習先の活動期間および活動事項について，大学が認定するボランティア機関の認定を受けてから授業課に届ける。たとえば，下記のようなボランティア活動が考えられる。

- ① 県内の行政との協働
- ② 地域の商工会との協働
- ③ 地域イベント（祭り等）へのボランティア（県，市町村など）
- ④ 関連する学会やボランティア活動の発表会への参加
- ⑤ 県内大学と連携するボランティア活動
- ⑥ 地域NPO・ボランティア団体への参加
- ⑦ その他の地域活動への参加

3. 授業計画

1. ボランティア活動の基礎（講義）	9. ボランティア実習（学習支援）
2. ボランティアの歴史と諸概念（講義）	10. ボランティア実習（高崎祭）
3. ボランティアの実践事例（講義）	11. ボランティア実習（子ども食堂）
4. 災害ボランティアについて（講義）	12. ボランティア実習（しんまち商工祭）
5. 活動計画書の作成（グループ活動・演習）	13. ボランティア実習（白鳥見守り隊）
6. ボランティア活動とSDGs（講義）	14. 活動報告書の作成（演習）
7. 災害に強いまちづくり（講義）	15. 活動結果報告会（プレゼンテーション）
8. ボランティア実習（新町七夕まつり）	（※ボランティア実習については例示である）

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・講義計画の講義テーマについて参考文献及び配布資料を講義までに読んでおくこと（30分程度）。
- ・5日間以上（30時間以上）の外部実習を行い，実習後に「社会貢献実践実習報告書」を作成（1件について60分程度），提出し，それに基づいて発表（発表のための資料作成に120分程度）する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

「社会貢献実践実習報告書」はコメントをつけて返却する。
活動結果報告会では，講評を行う。

6. 授業における学修の到達目標

- ・一市民として社会貢献実践に参加する意義や活動のなかでの自己の役割やありかたについて理解し、説明できるようになる。
- ・社会貢献実践の学外実習(5日間以上)を行い、大学での学びを実習現場で活用できるようになる。
- ・実習結果と振り返りを実習報告書に報告・提出し、次回の社会貢献実践の学外実習に応用できるようになる。
- ・社会貢献実践の活動結果報告会で1年間の実習結果を発表し、その意義・役割・課題を理解し、活用できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

活動計画書、実習報告書などの提出課題内容(60%)と活動報告会での発表(40%)により評価する。

8. テキスト・参考文献

参考文献：田村正勝『ボランティア論-共生の理論と実践』ミネルヴァ書房，2009年
前林清和・中村浩也編著『SDGs時代の社会貢献活動』昭和堂，2021年

9. 受講上の留意事項

学校行事として「学研災」の学生傷害保険が適用されるが、その条件として実習先や日程を大学側に届け出て、必ず承認を得ることが必要である。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

公務員試験対策ゼミ A		講義	准教授 黒沢 賢一	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目、スポーツトレーナーコースの教養選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	11220137 12220154 13220145 22200129	

1. 授業のねらい・概要

公務員試験の教養試験分野の問題は大きく一般知能と一般常識(知識)に分けられるが、その可否を決するのは一般知能の問題である。一般知能はさらに判断推理、空間把握、数的推理、資料解釈などに分けられ、この授業では判断推理と空間把握について、その問題の解き方を講義する。判断推理はクイズのような問題で、空間把握はパズルのような問題である。いずれも公務員試験独特のもので、学校では習ったことがなく、最初はとまどうかも知れないが、試験に出題される問題は決まっているので、その解法パターンをひとつでも多く身につけていくことが大切である。合格ラインをこえるために必要な解法パターンはこの授業ですべて身につけることができるようにする。また判断推理と空間把握の講義と並行して、授業では一般常識の主要科目である社会科学の試験に出るポイントも解説していく。さらに最近の人物重視の試験傾向をふまえて、面接攻略のためのポイントも講義する。

科目名は公務員試験対策ゼミとなっているが、これらは就職試験にも役立つ知識であり、最近の地方公務員試験では、市町村を中心にSPI やSCOA を実施するところがあり、それらの内容にも配慮した授業内容にするので、民間企業への就職を考えている学生にも役立つ内容になる。

2. 授業の進め方

毎回の授業は、①一般知能テスト(判断推理、空間把握の過去問を教材にした頻出問題を出題)→②解説講義→③一般常識のポイント解説講義という流れで進んでいく。面接対策については講義形式をとる。

3. 授業計画

1. ガイダンス 〈判断推理〉	9. 真偽
2. 順序関係	10. 暗号 〈空間把握〉
3. 時刻	11. パズル問題(図形の分割・構成)
4. 位置関係	12. 立体図形
5. 対応関係	13. サイコロと位相 〈面接対策〉
6. 試合の推理(リーグ戦)	14. 面接攻略法
7. 試合の推理(トーナメント戦)	15. まとめ講義
8. 命題と論理・集合算	

※判断推理、空間把握のほかに社会科学分野の公務員試験に出題されるポイントも解説する。

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが、授業を受けた後は必ず一般知能テストで出題された問題について、授業中にとったノートとは別のノート(これを「課題ノート」と呼ぶ)に問題の解き方を詳細にまとめ直し、すべての問題について何も参照しないで解けるようになるまで、くり返し復習することが求められる。一般常識については、テキストの指定された範囲のポイントを暗記するまで反復する。そのための復習時間としては2時間以上必要になる。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

テスト、課題ノート返却時に評価のポイントなどを指摘する。

6. 授業における学修の到達目標

(1)公務員試験に出題される一般知能の解法の基礎が理解できるようになる。

- (2) 公務員試験に出題される社会科学の知識を修得する。
- (3) 公務員試験の面接に向けた準備ができるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

授業内で実施する確認テスト(50%)と課題ノートの提出(50%)によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- (1) 黒沢賢一著『Point Master 社会科学の論点』(三恵社) 毎回使用するので必ず持参すること。
- (2) その他の受験教材については授業の中で紹介する。

9. 受講上の留意事項

毎回、授業のはじめに一般知能のテストをするが、できなくても気にする必要はない。解説講義を聞いて、くり返し復習してできるようになればいい。解説講義はただ聞いているだけでなく、説明の内容をしっかりとメモし、ポイントを聞き逃さないようにすることが大切である。

授業中の私語やスマートフォン、イヤホン等の使用は認めない。

他の学生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

公務員試験合格を確実にしたいという方には、「社会科学の基礎A」も受講することをすすめる。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

自然科学の基礎A		講義	教授 田中 基晴	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの教養選択科目, スポーツトレーナーコースの教養選択科目	科目ナンバリング	11220142	

1. 授業のねらい・概要

本学科において、これから人体に関する学問を学ぶ。それに先立って、身体の仕組みの根本を理解しておくことが極めて重要である。生化学という基礎医学の面からヒトの身体について理解を深めることを目的とする。

2. 授業の進め方

教科書およびプリントを使って講義（OHP and/or 板書）を進める。授業最後にその日のまとめを入れる。

3. 授業計画

1. はじめにー生化学とは？ 2. 高校化学の復習（I） 3. 高校化学の復習（II） 4. 細胞の構造（真核生物と原核生物） 5. 細胞の構造（細胞小器官） 6. 生体分子の構造と機能（I）糖質・タンパク質・脂質 7. 生体分子の構造と機能（II）ビタミン・ミネラル 8. タンパク質の構造と機能	9. エネルギー代謝 10. 物質代謝（糖質） 11. 物質代謝（脂質） 12. 物質代謝（アミノ酸・核酸） 13. 核酸の生化学 14. 神経・ホルモン 15. まとめ
--	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1) 予習（必要時間：約 50 分）

a) 前週の予習内容を伝える。下記のイ) -ロ) に示す 2 項目を学生に提示する。

イ) 学習概要

ロ) 受講するにあたり必要な専門用語の説明

2) 復習（必要時間：約 40 分）

a) 授業内容整理

各単元終了後に「まとめ」を提示して知識の確認を行うので、「まとめ」を十分理解、記憶するように復習する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 筆記試験

a) 正解は貼りだす。

b) 解説は、不正解問題を中心に行う。

6. 授業における学修の到達目標

食したものがどのように代謝され、栄養となるか、また体内でどのような働きをするかを理解する。

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の基準

人体の仕組み、代謝に関する基礎的理解ができているかを評価対象とする。

2) 成績評価の方法

a) 受講態度（出欠・遅刻・早退、スマホ閲覧など）（30 %）。（スマホ閲覧を禁止しています）

b) 筆記試験（70 %）。

8. テキスト・参考文献

9. 受講上の留意事項

人間の身体の仕組みの基本を理解するように心掛けよう。この知識は今後学問を学ぶ基礎となる。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。